

マルコの福音書 15章1-20節 神の民の真の王

今日、私たちはペテロがその目で見て、記者マルコに語ったイエス様の十字架への旅を続けます。前回の説教では、ペテロがイエス様を知っていることを三度も否定した最大のつまずきを見ましたので、イエス様から遠回りしてしまいました。しかし今日は、マルコによる福音書15章1節から20節までで、イエスが十字架につけられる直前に行われた二回目の裁判の場面に戻ります。

この二回目の裁判では、二人の支配者、一人は人間、一人は神を見ることができます。神の民が真の王を拒む中、弱い人間の支配者が宇宙の王を死に追いやります。この裁判の舞台を膳立てるために、イエス様が前夜逮捕されたことを思い出してください。イエス様はユダヤ教の指導者たちによって行われた違法な宗教裁判に連行されます。その裁判は、彼らが神を冒瀆していると解釈することを宣言することによって、イエス様に死刑を宣告するために必要な宗教的正当性をイエス様御自身が彼らに与えることで終わりました。この応答を [マルコの福音書14章61~62節](#)に読みます。しかし、イエスは黙ったまま、何もお答えにならなかった。大祭司は再びイエスに尋ねた。「おまえは、ほむべき方の子キリストなのか。」62 そこでイエスは言われた。「わたしが、それです。あなたがたは、人の子が力ある方の右の座に着き、そして天の雲とともに来るのを見ることになります。」

イエス様は明らかに神であると同時にメシアであると主張しており、そのためイエス様は死刑を宣告されました。問題は、サンヘドリンには誰かを死刑にする法的な権利がなかったことです。そのため、彼らはローマ政府の総督にイエスの死を承認してもらい、実際に死刑を宣告してもらう必要があったのです。それでは、この箇所を見てみましょう。マルコの福音書15章の1節から5節を読むことから始めましょう。そこには、宇宙の王であるイエスが沈黙している姿が描かれています。

マルコの福音書15章1~5節 夜が明けるとすぐに、祭司長たちは、長老たちや律法学者たちと最高法院全体で協議を行ってから、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王なのか。」イエスは答えられた。「あなたがそう言っています。」3 そこで祭司長たちは、多くのことでイエスを訴えた。4 ピラトは再びイエスに尋ねた。「何も答えないのか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているが。」5 しかし、イエスはもはや何も答えようとされなかった。それにはピラトも驚いた。

ユダヤ教の指導者たちであるサンヘドリンはイエス様を死刑にする権利を持っていなかったのので、イエスを死刑にできる指導者、ローマ総督ピラトのもとにすぐに連れて行くことにしました。さて、ピラトは歴史上あまり良い印象を持たれない人物でした。彼は紀元26年から36年までの10年間ローマ総督を務めました。ユダヤの人々はもともとローマ政府の支配を嫌っていましたが、ピラトは彼の行動によってその反感に拍車をかけました。

彼はローマ市民で、ポンティイ族出身のローマ上流中産階級出身であり、他の福音書の記述にポンテオ・ピラトという名前が見られるのはそのためです。彼は、皇帝の肖像が描かれた軍章をエルサレム市内に誇示するなど、ユダヤ人を怒らせるようなことをした。彼はまた、神殿の資金を没収したり盗んだりして、水道橋建設の資金にしました。

ユダヤの歴史家フィロとヨセフスは、彼を腐敗した残酷な人物として描いています。彼は地元のローマ軍の全資産を掌握しており、些細な問題にもそれを使って対応しました。結局、その過剰反応によってローマ政府は彼をその地位から解任し、ローマに呼び戻すことになるのですが、ネロによって処刑されたのではないかという記録もあります。

その男こそ、今、イエス様の前に立っているローマ総督でした。彼が直属するローマ政府の目からはこの残酷な男には一つの仕事しかありませんでした。地域の平和を維持することです。ローマ政府に対する反乱を阻止することでした。つまり、3週間前に述べたように、メシアであると主張することは犯罪ではありませんでしたが、ユダヤ人当局は、イスラエルをローマの支配から解放するために来る政治的メシアという民衆の理解を利用して、イエス様に対する政治的扇動罪を負わせることができたのです。民衆が理解するメシアとは、イスラエルの真の王、ユダヤ人の王となるダビデの血筋の王のことです。このことは、ルカによる福音書23章2節にある、3節で彼

らがイエス様を非難した**多くのこと**でと呼ばれるものより詳細な記述にはっきりと表れています。

ルカの福音書 23章 2節 **そしてイエスを訴え始めて、こう言った。「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることが分かりました。」**

キリストとはメシアのことです。もちろん、ローマに逆らうような王は、ローマ帝国が築いた「パクス・ロマーナ」の平和を維持するために滅ぼさなければなりません。そこでピラトは、この男が自らをユダヤの宗教指導者たちの言うところの王であり、イスラエルをローマから解放するためにやってきた王であると自称しているとの告発を聞き、イエス様にそのことを直接問いただしました。**あなたはユダヤ人の王なのか。**

さて、私たちは他の福音書から、イエス様が死ぬ前にもっと多くの発言をすることを知っていますが、マルコ書はユニークに、イエス様を十字架につける者たちの前で沈黙するイエス様を描いています。実際、ピラトに対する答えの後、イエス様が十字架にかけられ、死ぬ直前に最後の言葉を述べる34節まで、マルコ書ではイエス様はもう一言も語られません。つまり、イエス様は最後の返答をし、2節の沈黙の後、**あなたがそう言っています。**言うのです。

彼の返答の焦点は「あなた」という代名詞です。これは、「あなた自身がこのことを考えるべきだ」という意味の挑発的な発言です。イエス様は自分がメシアであり、ユダヤ人の王であることを否定したのではなく、それが本当だとしたらどういうことかを考えるようピラトに疑問を投げかけているのです。しかしその後、宇宙の王は自ら進んで十字架上で命を捨てるまで沈黙されました。ですから、5節にこうあります、**しかし、イエスはもはや何も答えようとされなかった。それにはピラトも驚いた。**

古代教会の牧師であり殉教者であったユスティンは、これは「敗北の沈黙ではなく、受難における神の主権への降伏の沈黙」であったと述べています。イザヤ書53章7節でメシアについて預言されたように、

イザヤ書53章7節 **彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。**

沈黙の王であるイエスが、自らが創り出した人々の前で裁判にかけられた今、焦点はすべてこの人間の支配者ピラトに当てられています。この残酷な男の中に見えるのは、イエスを死刑にすることには消極的だが、その根底にあるのは、正しいことをするよりも民衆の意向を気にする弱さです。6-15節を一緒に読んでみましょう。

6 **ところで、ピラトは祭りのたびに、人々の願う囚人一人を釈放していた。7** **そこに、バラバという者がいて、暴動で人殺しをした暴徒たちとともに牢につながれていた。8** **群衆が上って来て、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。9** **そこでピラトは彼らに答えた。「おまえたちはユダヤ人の王を釈放してほしいのか。」10** **ピラトは、祭司長たちがねたまからイエスを引き渡したことを、知っていたのである。11** **しかし、祭司長たちは、むしろ、バラバを釈放してもらうように群衆を扇動した。12** **そこで、ピラトは再び答えた。「では、おまえたちがユダヤ人の王と呼ぶあの人を、私にどうしてほしいのか。」13** **すると彼らはまたも叫んだ。「十字架につける。」14** **ピラトは彼らに言った。「あの人があんな悪いことをしたのか。」しかし、彼らはますます激しく叫び続けた。「十字架につける。」15** **それで、ピラトは群衆を満足させようと思い、バラバを釈放し、イエスはむちで打ってから、十字架につけるために引き渡した**

マルコ書には記されていませんが、5節から6節の間に、ローマ政府のさらに上のレベルで裁判が行われています。ルカ書によれば、ピラトはイエス様をガリラヤ地方を治めるヘロデ王のもとに送ることで、この状況から逃れようとしていました。しかし、ヘロデ王もこの件には関わりたくないようで、イエスを死刑にする理由が見つからないと言い、ピラトに送り返します。この6節から再び話が続きます。毎年この時期には、地元の支配者が囚人を赦免する伝統があるようなので、ピラトはこの状況を打開する別の方法を見出します。

問題は、イエス様が宗教指導者たちが非難しているような罪を犯していないことを、彼がはっきりと見抜いていることです。イエス様は政府を転覆させ、自らを王と宣言しようとはしておら

ず、宗教指導者たちはイエス様の言葉をねじ曲げて、イエス様を反乱を起こす反逆者として描いているのです。

そこで、この宗教指導者たちは、自分たちが探し求めていると主張するメシアと、自分たちが崇拝していると主張する神に反対させるよう群衆を扇動します。そして、イエス様ではなく、政府を転覆させようとして殺人を犯した実際の暴徒を釈放するよう求めるように説得しました。マルコは、ピラトがイエスに十字架刑に値する罪があるとは考えていないが、道徳的に弱い人であり、ユダヤの宗教指導者たちがあおる不正に立ち向かう勇気がないことを明らかにしたいのです。そこで彼は10節でこう語ります、**10 ピラトは、祭司長たちがねたみからイエスを引き渡したことを、知っていたのである。**

そこで彼は群衆に屈し、バラバを釈放する一方で、イエス様の十字架刑を命じました。しかし、イエス様を軍に引き渡して十字架につける前に、鞭打ちました。十字架刑の前にも拷問が行われていることを見逃してはなりません。鞭打ちや打擲は、ローマ人が十字架で殺される誰かを準備する残酷で野蛮な方法でした。私の目的は、現代の子どもたちに悪夢を見せることではありません。私たちはそのむかしに人々が処刑された非人道的な方法を否定する現代社会に生きていますので、ここで何が起こっていたのかを理解することです。囚人（この場合はイエス様）は衣服を剥ぎ取られ、柱に縛り付けられました。

縛られ、身動きがとれない状態で、骨や金属片が編み込まれた革の鞭で打たれました。鞭を振るう者の打つ回数に制限はなく、この拷問だけで命を落とすことも少なくありませんでした。鞭は長く、人の体に巻きつき、引き戻されると肉が引きちぎられ、開いたままで出血する傷が残ります。見ているだけでもぞっとするような拷問だったので、女性には決して見せませんでしたし、その仕打ちを受けさせませんでした。それは、磔による死の行程が早まるようにするためにされていました。

そして、十字架に至るまでの拷問はこれで終わりではありませんでした。沈黙を守っていましたが真の王であるイエス様が拒絶され、あざけられました。16節から20節を見てください。

16 兵士たちは、イエスを中庭に、すなわち、総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。17 そして、イエスに紫の衣を着せ、茨の冠を編んでかぶらせ、18 それから、「ユダヤ人の王様、万歳」と叫んで敬礼し始めた。19 また、葦の棒でイエスの頭をたたき、唾をかけ、ひざまずいて拝んだ。20 彼らはイエスをからかってから、紫の衣を脱がせて、元の衣を着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。

ローマの兵士たちは、十字架につけるためにイエス様を連行する前に、束ねた葦の棒で何度も殴りつけながら、長さ5センチはあろうかという中東の茨でできた冠を彼の頭にかぶせ、宇宙の王を嘲笑いました。彼らは王族の色である紫色の外套を彼の皮膚が破れ、血を流す背中と脇腹に着せ、彼らの目には偽物の自称王である人を嘲笑いました。この行為に関与したのは数人の兵士だけではありませんでした。16節で大隊と表現されているこの集団は、約600人の兵士たちでした。

しかし、マルコ書で焦点となっているのは、実際の肉体的な苦痛ではなく、イエス様を嘲笑う情景です。これは単なる処刑ではなく、神の御子に対する嘲りであり、関係者全員によるその御子に対する拒絶なのです。なぜこのようなことが起こっているのでしょうか？

使徒の働き 2章23節 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。

イエス様はピラトに引き渡され、兵士たちに引き渡され、殴られ、あざけられ、拒絶されるのは、御父なる神御自身が、たったひとつの目的のために、その独り子にこのようなことが起こるように計画されたからでした。

ヨハネの福音書 3章 16節 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

その目的とは、人々を罪から救うことによって御自身御に栄光を帰すことです。御自身が創造し、御自身の民となるように前もって定められた人々に対する御自身の愛が、御父の計画と、十字架上で御子の従順が完成され、復活によって宣言されたのです。あなたも私も皆、問題を抱えています。私たちは聖い義なる神によって創造されました。神は私たちを御自身にかたどって造

られ、御自身が造られたこの世界を支配し守る似姿の担い手として、御自身にに栄光を帰すようにと召されました。しかし、最初の間人は罪を犯し、全人類を代表する「連邦の長」として、罪の呪いをもたらし、私たち全員に死をもたらしました。

ローマ人への手紙 5章12節 こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に――

しかし初めから、アダムの契約から始まり、この最初の罪人アダムに対して、神は、私たち皆のためにサタンの頭を砕く救い主メシアが来ると約束されました。躓いたアダムが私たちの代表として罪をもたらしたように、その救い主は、聖なる神の御前で私たちを代表し、神の掟を完全に守り、完全に聖なる人間として使命を果たされました。そして、旧約聖書を通して、私たちはこの救い主についてだんだんと学び、新約聖書ではついに、使徒ヨハネがヨハネによる福音書1章29節で描写しているように、イエス・キリストとして啓示されるのです。**ヨハネの福音書1章29節** その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊。

そして、イエス様が私たちの罪を取り除くことができる理由は、主が十字架にかかる時、御父なる神がその完全な聖なる御子に人類のすべての罪を負わせるからです。私たちの創造主である神に完全に従順でなく、神の栄光と一致していない、あなたや私の考えや言動のすべても降イエス様が負われたのです。

ペテロの手紙第一 2章24節 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。

第二の頭として、人類を代表する第二の人として、しかし今回は完全に聖なる、罪のない人として、神は私たちの罪をイエス様に負わせました。その鞭の打ち傷の一筋一筋、そのいばらの冠のとげの一本一本は、私たちの癒しのため、罪からの救いのためでした。なぜなら、私たちの罪に対する神の怒り、私たちに対する神の怒りのもとで、私たちが受けるにふさわしい鞭打ちだったからです。その代わりに、神はその怒りと罰を、不敬虔な宗教指導者、弱い王、あざける軍隊の手を通して、御自身の御子に注がれたのです。ですから、私たちの苦難の僕である救い主の残酷な姿から逃げたいはいけません。その代わりに、イエス様を兵士たちに引き渡し、十字架につかせた私たち自身の罪を悔い改め、それらすべての罪の罰を自ら受けてくださったお方に、信仰によって従いましょう。

あなたがイエス・キリストを主であり救い主として受け入れ、バプテスマという従順の第一歩を踏み出したのであれば、今日、この主の晩餐の聖礼典において、その犠牲、砕かれた体、流された血を思い起こすことに参加なさってください。キリストの犠牲は、言葉や文化に関係なく、キリストを知る私たち全員を結びつけ、私たち全員が救い主を必要とする罪人として立っているからです。

私が祈った後、執事がパンと杯をお配りします。そのあと、共にぱんと杯に与ります。もしあなたが今日、この救い主イエスを知らないのであれば、参加するのではなく見学され、なぜイエス様があなたのためにこの犠牲を払われたのかをぜひ考えてみてください。罪を悔い改め、イエス様をあなたの主、あなたの王、あなたの救い主として受け入れることで、イエスの犠牲を受け入れ、今日があなたの救いと罪からの解放の日となるよう祈ってみませんか。祈りましょう。

Mark 15:1-20 Two kings

Today we continue our journey to the cross with Jesus as witnessed by Peter and told to the writer Mark. We took a detour away from Jesus in our last sermon as we saw Peter at his greatest point of failure as three times he denied that he knew Jesus. But today we return to what is happening to Jesus in Mark 15:1-20 and we find him at the second trial which takes place immediately before his crucifixion. In this second trial we see two rulers, one human and one God, and the weak human ruler sends the king of the universe to his death, as the people of God reject their true king. To set the stage for this trial, remember that Jesus has been arrested the night before. He is taken to an illegal religious trial conducted by the Jewish leaders. That trial ended with Jesus himself giving them the religious justification that they needed to condemn him to death by proclaiming what they interpreted as blasphemy. We read his response in [Mark 14:61-62](#), [Again the high priest asked him, "Are you the Christ, the Son of the Blessed?"](#) [62 And Jesus said, "I am, and you will see the Son of Man seated at the right hand of Power, and coming with the clouds of heaven."](#) Jesus was clearly claiming to be God as well as the Messiah, and this led to Jesus being condemned to die. The problem was that the Sanhedrin didn't actually have the right legally to condemn someone to death, so they needed the Roman governor to approve Jesus's death and actually sentence him to die. With that said, let's look at this passage.

We'll begin by reading verses 1-5 of Mark 15 where we see Jesus, the king of the universe in silence. [15 And as soon as it was morning, the chief priests held a consultation with the elders and scribes and the whole council. And they bound Jesus and led him away and delivered him over to Pilate.](#) [2 And Pilate asked him, "Are you the King of the Jews?"](#) [And he answered him, "You have said so."](#) [3 And the chief priests accused him of many things.](#) [4 And Pilate again asked him, "Have you no answer to make? See how many charges they bring against you."](#) [5 But Jesus made no further answer, so that Pilate was amazed.](#) Since the Sanhedrin, the Jewish leaders, did not have the right to put Jesus to death, they decide to take him right away to the leader who could, the Roman governor, Pilate. Now, Pilate is a man that history does not look well upon. He was the Roman governor for 10 years from AD26-36. The Jewish population already did not like the rule of the Roman government, but Pilate added to that animosity by his actions. He was a Roman citizen who was from the Roman upper middle class from the clan of Pontii, which is why you see him named as Pontius Pilate in other gospel accounts. He did things that offended the Jews like parade a military insignia into the city of Jerusalem with the Emperor's image on it. He also confiscated or stole money from the temple's funds and used them to fund an aqueduct. Jewish historians Philo and Josephus both portray him as corrupt and cruel. He had full control of all the local Roman military assets and would use them to respond to the smallest issue. Eventually that overreaction would lead to the Roman government removing him from his position and recalling him to Rome, where some records indicate he may have been executed by Nero.

This was the Roman governor who Jesus now stood before. This cruel man had one job in the eyes of the Roman government who he reported to – keep peace in the region. He was to stop insurrection against the Roman government. So, although it was not a crime to claim to be the Messiah as I mentioned 3 weeks ago, the Jewish authorities could use the popular understanding of a political Messiah coming to free Israel from the grip of Rome to levee charges of political sedition against Jesus. The Messiah by popular

understanding would be the king from David's line that would be the true king of Israel, the king of the Jews. We see this clearly in the more detailed description of what verse 3 calls "**many things**" they accused Jesus of in [Luke 23:2](#). **And they began to accuse him, saying, "We found this man misleading our nation and forbidding us to give tribute to Caesar, and saying that he himself is Christ, a king."** Remember Christ is the term for Messiah. Of course, any king that would come against Rome would need to be destroyed to keep peace within the Roman Empire, this "Pax Romana" that they had built. So Pilate hearing the charges that this man had proclaimed himself to be what the Jewish religious leaders were characterizing as king who had come to free Israel from Rome ask Jesus about this in a direct way. **"Are you the King of the Jews?"** Now we know from the other gospels that Jesus makes more statements before his death, but Mark uniquely shows him as silent before the ones who crucify him. In fact after his answer to Pilate, Jesus will not say another word in the book of Mark until verse 34 when he is hanging on the cross and says his final words just before dying. So Jesus gives his last response he will give and after that silence in verse 2, **You have said so.**" The focus on his response is the pronoun, **"You."** It is more a provocative remark along the lines of "You yourself should consider this." Jesus didn't deny that he was the Messiah, the king of the Jews, but he was challenging Pilate to consider what it would mean if that was true. But after that, the king of the universe was silent until he willingly laid down his life on a cross. So, we read in verse 5, **But Jesus made no further answer, so that Pilate was amazed. An ancient church Pastor and martyr, Justin said this was "not a silence of defeat, but a silence of surrender to God's sovereignty in the passion"** This was about following God's will, not an earthly ruler exerting his authority over Jesus. Just as it was prophesied about the Messiah in [Isaiah 53:7](#), **He was oppressed, and he was afflicted, yet he opened not his mouth; like a lamb that is led to the slaughter, and like a sheep that before its shearers is silent, so he opened not his mouth.**

With Jesus, as the silent king on trial before those whom he created, the focus is now all on this human ruler, Pilate. And what we see in this cruel man is a reluctance to put Jesus to death, but a weakness at his core that cares more about the will of the people rather than doing what is right, because **this human king is weak.** Let's read verses 6-15 together. **⁶ Now at the feast he used to release for them one prisoner for whom they asked. ⁷ And among the rebels in prison, who had committed murder in the insurrection, there was a man called Barabbas. ⁸ And the crowd came up and began to ask Pilate to do as he usually did for them. ⁹ And he answered them, saying, "Do you want me to release for you the King of the Jews?" ¹⁰ For he perceived that it was out of envy that the chief priests had delivered him up. ¹¹ But the chief priests stirred up the crowd to have him release for them Barabbas instead. ¹² And Pilate again said to them, "Then what shall I do with the man you call the King of the Jews?" ¹³ And they cried out again, "Crucify him." ¹⁴ And Pilate said to them, "Why? What evil has he done?" But they shouted all the more, "Crucify him." ¹⁵ So Pilate, wishing to satisfy the crowd, released for them Barabbas, and having scourged Jesus, he delivered him to be crucified.** What we don't see here in Mark is that there is an additional trial that happens at the next higher level of Roman government between verses 5-6. Luke tells us that Pilate tries to get himself out of this situation by sending Jesus to King Herod, who rules over the area of Galilee instead. But Herod also wants nothing to do with this, and says he can't find any reason to put him to death and sends him back to Pilate. That is where verse 6 picks up. It seems like there is a tradition where the local ruler can pardon a prisoner at this time each year, so Pilate sees another way out of this situation. The problem is that

he clearly sees that Jesus is not guilty of what the religious leaders are accusing him of. He is not trying to overthrow the government and proclaim himself king, and the religious leaders are twisting what he said to paint him as a rebel leading an insurrection.

So, these religious leaders stir up the crowds against the Messiah they claim to look for and the God they claim to worship. And they convince them to call for the release not of Jesus, but an actual insurrectionist who committed murder trying to overthrow the government. Mark wants to make it clear that Pilate does not believe that Jesus is guilty of anything deserving crucifixion, but he is a morally weak man, without the courage to stand against the injustice being stirred up by the Jewish religious leaders. So, he tells us in verse 10, **For he perceived that it was out of envy that the chief priests had delivered him up.** So, he gives in to the crowds and releases Barabbas while ordering the crucifixion of Jesus. But he does not turn over Jesus to the military for crucifixion before also scourging him. We should not miss the torture that takes place even before the crucifixion. Flogging or **Scourging** someone was the cruel and savage way that the Romans would prepare someone to be killed by crucifixion. My goal is not to give children nightmares today, but because we live a modern society that has rejected the inhumane ways that people were executed in years past, we need to understand what was happening here. The prisoner, in this case Jesus, would have been stripped of their clothing and tied to a post. While tied and unable to move, they would be beaten with a leather whip which had bits of bone or metal woven into the strips of leather. There was no limit on how many strokes could be delivered by the one delivering the punishment, and people often died from this torture alone. The whip was long and would wrap around the person's body and as it was pulled back would tear off flesh and leave open and bleeding wounds. It was so gruesome to even watch that women would never be forced to watch it nor would they subject women to it ever. It was done so that the process of death from crucifixion would come sooner.

And this was not the end of the torture even leading up to the cross, as Jesus the silent but true king is rejected and mocked. Look at verses 16-20.¹⁶ **And the soldiers led him away inside the palace (that is, the governor's headquarters),^[b] and they called together the whole battalion.^[c]** ¹⁷ **And they clothed him in a purple cloak, and twisting together a crown of thorns, they put it on him.** ¹⁸ **And they began to salute him, "Hail, King of the Jews!"** ¹⁹ **And they were striking his head with a reed and spitting on him and kneeling down in homage to him.** ²⁰ **And when they had mocked him, they stripped him of the purple cloak and put his own clothes on him. And they led him out to crucify him.** Before leading him away for crucifixion, the Roman soldiers now mock the king of the universe with a crown made out of middle eastern thorns probably 5 centimeters in length beat down into his head with multiple blows of a stick, a reed... think something like bamboo. They place a purple cloak, the color of royalty on his torn and bleeding back and sides in order to mock the one they saw as a fake and self-proclaimed king. This isn't just a few soldiers involved in this action. This group described as a battalion in verse 16 is about 600 soldiers. The focus here in Mark, though, is not actually the physical pain, but this mocking spectacle that is made of Jesus. This is more than just carrying out an execution, it is a mockery of God's Son, a rejection of who he is by all of those involved.

And why is all of this happening? [Acts 2:23](#) tells us. [This Jesus, delivered up according to the definite plan and foreknowledge of God, you crucified and killed by the hands of](#)

lawless men. Jesus is being delivered up to Pilate, delivered over to the soldiers, beaten, mocked, rejected, because God the Father himself has planned for this to happen to his only son for one singular purpose. [John 3:16](#) tells us, 16 “For God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life. That purpose is to glorify himself by saving people from their sin. His love for those he created and predestined to be his people drove the Father’s plan and the Son’s obedience to that plan that would be complete on the cross and proclaimed by the resurrection. You and I all have a problem. We were created by a holy and righteous God, who made us in his image and called us to bring glory to himself as image bearers caring for this world He created. But the first human sinned and as our “federal head” representing all of humanity brought the curse of sin and with it death on all of us. [Romans 5:12](#) says, 12 Therefore, just as sin came into the world through one man, and death through sin, and so death spread to all men because all sinned— But from the very beginning, starting with the Adamic covenant, God promised this first sinner, Adam, that Messiah a Savior would come who would crush Satan’s head for us all. Just as Adam failed, that Savior would succeed as a perfectly holy human who would represent us before a holy God and perfectly keep God’s law. And all through the Old Testament time after time we learn more and more about this Savior until finally in the New Testament he is revealed as Jesus Christ who the apostle John describes in [John 1:29](#) as “the Lamb of God, who takes away the sin of the world.” And the reason he can take away our sin is because when he hangs on that cross, God the father places on his perfect holy son all the sin of humanity, everything that you and I have ever thought said or done that was not perfectly obedient to God our creator and aligned with his glory. [1Peter 2:24](#) says, He himself bore our sins in his body on the tree, that we might die to sin and live to righteousness. By his wounds you have been healed. As the second head, the second man to represent humanity, but this time as perfectly holy and without sin, God put our sin on Jesus. Every stripe of blood from that whip, every thorn from that crown was for our healing, our salvation from sin. Because those were the stripes that we deserved to suffer under God’s wrath, his anger against us for our sin. Instead he poured out that wrath and anger against his own son through the hands of ungodly religious leaders, a weak king and a mocking army, so that we can look to Jesus and find salvation. So don’t run away from this brutal picture of our suffering Savior. Instead, repent of those sins that sent him to those soldiers and to that cross, and follow by faith the one who took the punishment for all those sins on himself. If you have done that, accepted Jesus Christ as your Lord and Savior and taken that first step of obedience in baptism, then I invite you to join today in remembering that sacrifice, that broken body, that spilled blood, in this sacrament and ordinance of the Lord’s Supper. This is a meal we take together because Christ’s sacrifice unites all of us who know him, regardless of language or culture, we all stand as sinners in need of a Savior. After I pray, the Deacons will serve the bread and cup and we will eat and drink together. If you don’t know this Savior Jesus today, then I ask you to watch rather than participate and consider why Jesus made this sacrifice for you. Perhaps today can be the day of your salvation and freedom from sin as you accept his sacrifice by repenting of your sin and accepting Jesus as your Lord, your king, and your Savior. Let’s pray.